

# 碧い風

きらめきの地域デザイン

あおいかぜ

特集

地域に多面的な価値をもたらす農山漁村発イノベーション

115

2026 March

「農山漁村発イノベーション」の推進は、2020（令和2）年3月に閣議決定された「食料・農業・農村基本計画」で、「農村発イノベーション」（活用可能な農村の地域資源を発掘し、磨き上げた上で、これまでにない他分野と組み合わせる取組）として記され、それを受けて2022（令和4）年4月に公表された「新しい農村政策の在り方に関する検討会」による「新しい農村政策のとりまとめ」において提唱された。農業などの産業政策だけでなく住民の生活を維持する地域政策に焦点が当てられ、そこで示された「しごとづくり」「くらしづくり」「活力づくり」の三つの施策

が一体となって農山漁村の政策は成り立つ、とされた。その「しごとづくり」では、1次産業以外の産業や経済活動にも目が向けられ、農山漁村発イノベーションの発想につながった。この発想の背景には、移住などの「田園回帰」の動きがある。地方への移住の流れは、「団塊の世代が定年退職後に生まれ故郷へ戻っていく」という予測から始まった。実際には定年延長などもあり大きな動きには至らなかったが、一方で、子育て世代などが地方に目を向けるようになり、若い世代の移住希望者が増えていった。

田園回帰の背景には「関係人口」などによる農山漁村への関心の高まりがあるが、移住自体は一過性の動きではなく現在も続いており、例えば、私の

地元は鳥取県は毎年県外から2000人単位の移住者を迎えている。その動きは全国でみられ、それを受けて農林水産省が農村政策を捉え直し、「しごとづくり」として打ち出したのが農山漁村発イノベーションだと理解することができるとがである。

※ 出典：新しい農村政策の在り方に関する検討会・長期的な土地利用の在り方に関する検討会「地方への人の流れを加速化させ持続的低密度社会を実現するための新しい農村政策の構築」（令和4年4月）

「田園回帰」の動きが新しい農村政策につながる

POINT OF VIEW 視点

多様な連携で地域資源を磨き上げ 農山漁村の価値を創出する 筒井 一伸 鳥取大学 地域学部 地域創造コース 教授

profile

筒井 一伸 (つつい いかずのぶ) 1974年佐賀県生まれ。鳥根大学法文学部法学科卒業、大阪市立大学大学院文学研究科地理学専攻修了。博士(文学)。専門は農村地理学・地域経済論。愛知県豊根村役場で地域間交流支援専門研究員を務めた後、2004年に鳥取大学に着任。過疎問題や農山村と都市の地域間関係のあり方を研究。著書「移住者による継業 農山村をつなぐバトンリレー」(2018年、筑波書房)で第34回農業ジャーナリスト賞(2019年)、「田園回帰がひらく新しい都市農山村関係」(2021年、ナカニシヤ出版)で2021年度農村計画学会賞を受賞。



特集 地域に多面的な価値をもたらす農山漁村発イノベーション



p.6



p.9



p.17



p.20



p.23



p.24



p.26

碧い風 115 2026 March CONTENTS

14	地域に生きる企業家群像 115 株式会社イブシロンソフトウェア 代表取締役 渡部 晋司 (鳥根県松江市)
17	キラリ、輝く元気企業 88 株式会社メモワールイナバ (鳥取市)
20	夢紡人/ゆめつむぎびと 111 トラでいっしゅ株式会社 代表取締役 片桐 萌絵 (広島県東広島市)
23	この名酒にこの一品 38 原田 特別純米酒 西都の幸 海の幸と山の幸の前菜 四種盛り (山口県周南市)
24	伝統芸能を継ぐ人びと 16 唐子踊 (岡山県瀬戸内市)
26	オンリーワンのご当地ミュージアム 8 下関市立自然史博物館豊田ホタルの里ミュージアム (山口県下関市)
28	山をあるく 26 雲月山 (広島県)

表紙写真/生命が芽吹く田植え期の圃場(鳥取県西部)  
表紙写真提供/萱野 雄一  
目次写真提供/株式会社エーゼログループ、村尾 悦郎、山田 真実、トラでいっしゅ株式会社、宮本 剛、唐子踊保存会、豊田ホタルの里ミュージアム  
デザイン/有限会社シフト

青い海と緑の山々に恵まれた中国地域に、地域づくりの風が吹き始めています。自分たちの大好きなこの街を少しでも良くし、子どもたちにしっかりと手渡したい。こんな気持ちで頑張っている人たちがいっぱいいます。「碧い風」は、そんなまちづくり人を結びながら、自分たちのまわりにある魅力を高め、きらめくような中国地域にしていく媒体にしていきたいと思っています。強くないが、楽しい風。そんな風を、みなさんと一緒に巻き起こしたいと考えています。

3	1 視点 1 多様な連携で地域資源を磨き上げ農山漁村の価値を創出する 筒井 一伸 (鳥取大学 地域学部 地域創造コース 教授)
6	木材生産から多様な資源の活用へ村全体で進める資源循環型の地域づくり 岡山県西粟倉村
9	海・山全ての恵みから新たな価値をつくる〜養鶏から始まる循環型農業〜 有限会社長門アグリスト (山口県長門市)
12	農業×福祉×商工で自立持続型ビジネスモデルを構築 株式会社八天堂フアーム (広島県三原市)

特集 地域に多面的な価値をもたらす農山漁村発イノベーション

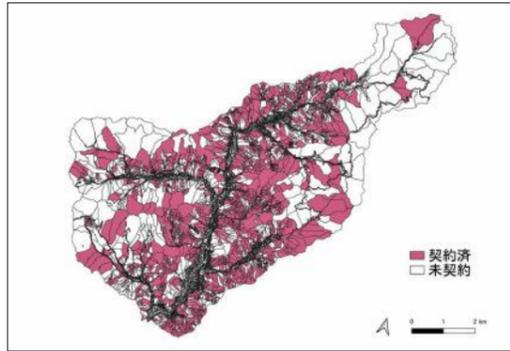
\*本誌は再生紙を使用しています



図2 村が所有者と契約を交わした山林の範囲 (2024年度末時点)



西栗倉村産業観光課主事の北村朋也さん



画像提供/西栗倉村

預かり(図2)、村から施業を委託された民間事業者が山林を管理する。所有者は、間伐や作業道敷設などの負担がかからず、木材にすることで収益が生じれば村との間で分配される。これが百年の森林事業の主軸だ。

これにより、林業関係で村内に100人以上の雇用が生まれ、関連企業の年間の総売上高は1億円から1億円になったという。木材は、村内の公共施設の建材や備品、家具などに利



中心地に立つ木造の「あわくら会館」は庁舎等の一体型施設(2021年竣工)。木材の97%を村産材が占め、村産材は株式会社エーゼログループが供給した 写真提供/西栗倉村

**木材事業の次の一手 エーゼログループの挑戦**

村を「川上」とするならば、「川下」に当たるのが村内の民間企業だ。西栗倉村では、移住者による起業が盛んで、中

用され、間伐材や端材などは薪やチップにしてバイオマス発電や熱供給ボイラーなどに使われている。

「百年の森林構想は、林業の視点が中心でしたが、森林には木材生産以外にも多面的な価値があることが分かってきました。里山には山菜やきのこ、ミツバチなど、多様な資源があります。これらを生かして多品目生産やグリーンツーリズムを促進する。あるいは地形的に整備が難しい山頂部などは、自然にしておくことで、生物多様性を守り、災害レジリエンスを強化する。そして企業や都市とのネットワークをつくり、関係人口を増やし、森林価値の最大化を図ろうというのが新たに打ち出した「百森2.0」です」

そう話すのは、西栗倉村産業観光課主事の北村朋也さんだ。村では、森林の再構築(森林RE Design)(図1)に向けて、村内の全山林をさまざまな要素により評価、マッピングすることで資源の可視化を図っている。

## 木材生産から多様な資源の活用へ 村全体で進める資源循環型の地域づくり



### 岡山県西栗倉村

西栗倉村は、岡山県の北東端に位置する、中国山地南麓の小さな村だ。面積の約93%を森林が占める同村では、2008(平成20)年に「百年の森林構想」を掲げ、森林整備と資源循環型の地域づくりを進めてきた。この森林を軸にした独自の取り組みにより、移住者や起業希望者を呼び込み、全国的に注目されてきた。そして、2020(令和2)年には新たなビジョンとして「百森2.0」を掲げた。人口約1300人の小さな村で、森林や植物など地域資源の相互関連による新たな価値創造への挑戦が始まっている。 文/黒部 麻子

図3 エーゼログループが三つの領域に分けて行う「未来の里山づくり」の実現に資する事業

経済資本領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローカルベンチャー育成事業</li> </ul>	
社会資本領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>ふるさと納税関連事業</li> <li>企業研修事業</li> <li>建築、不動産事業</li> <li>高齢者福祉事業(株式会社ネ)</li> </ul>	
自然資本領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>木材事業(西栗倉森の学校)</li> <li>観光イチゴ農園、レストラン(BASE101%)</li> <li>野遊り料理棟</li> <li>ジビエ事業</li> <li>養蜂事業(Reml Behn)</li> </ul>	

写真提供/1・2・4・5 株式会社エーゼログループ 3 一般社団法人Nest/Pocket

でも株式会社エーゼログループは、村産木材の6次産業化と移住・起業支援事業などを手掛け、さまざまな挑戦を重ねてきた。代表取締役CEOの牧大介さんは、設立の経緯をこう話す。

「百年の森林構想の事業が本格的に始まった2009(平成21)年に、株式会社西栗倉・森の学校を設立しました。木材加工流通事業をなんとか黒字化し安定してきた頃に、もっと地域の中でチャレンジを増やし、木材以外にも次の仕掛けを打っていかうということで、別会社として立ち上げたのがエーゼロ株式会社です。2023(令和5)年に両社を合併してエーゼログループとなりました」

同社では「未来の里山づくり」に向け、地域が持つさまざまな資本を生か

して多彩な事業を展開している。「経済資本領域」では、ローカルベンチャー育成事業を行い、「社会資本領域」では、ふるさと納税事務受託や建築、不動産事業、福祉事業などを行う。「自然資本領域」では木材事業に加え、観光イチゴ農園やレストラン経営、ジビエ事業、養蜂事業などを行っている(図3)。

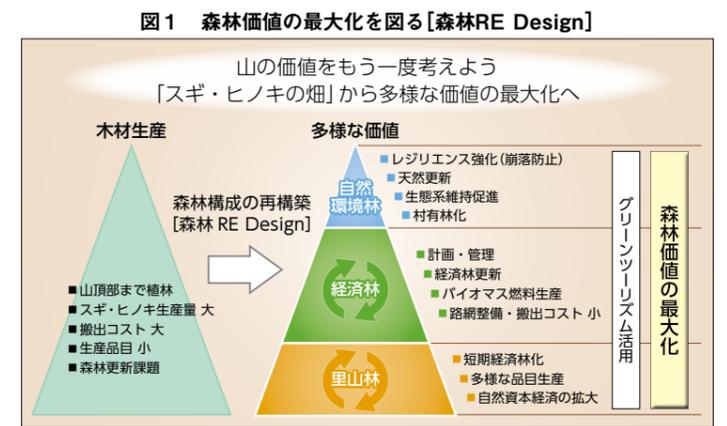
里山ならではの資本を生かしたイノベーションは、他の自治体からも注目され、現在では北海道厚真町、滋賀県高島市、鹿児島県錦江町にも支社を構え、多拠点で事業展開している(鳥取市でも準備中)。

起業支援としては、2021(令和3)年から「TAKIBIプログラム」(図4)を行っている。以前は「西栗倉ローカルベンチャースクール」として、村外

「約50年生にまで育った森林の管理をここで諦めず、村ぐるみであと50年頑張ろう。そして美しい百年の森林に囲まれた上質な田舎を実現していこう」

西栗倉村の「百年の森林構想」は、こうした思いから始まった。国産木材の需要低迷により、手入りをされなくなった放置林を、村が主体となって整備する。村が所有者と契約して山林を

### 森林価値の最大化を図る「百森2.0」



西栗倉村の資料を基に作成

※ グリーンツーリズム…自然豊かな農山漁村に滞在して、地域の人々と交流しながら農山漁業や生活・伝統・文化等の体験を楽しむ旅



有限会社長門アグリストでは規格外の農作物などからつくる飼料で「長州黒かしわ」を飼育し、鶏糞やウニ殻などで堆肥を製造。さらにその堆肥でサトウキビなどを栽培し、開発・製造した加工品をながとブランドとして販売している

写真提供 / 1・2・4 有限会社長門アグリスト

# 海・山全ての恵みから新たな価値をつくる ～養鶏から始まる循環型農業～

## 有限会社長門アグリスト〈山口県長門市〉

海と山の恵み豊かな山口県長門市。この地で養鶏を起点に、堆肥づくりや農産加工、商品開発など循環型農業を行い地域産業をリードするのが、有限会社長門アグリストだ。

地域製品の6次産業化を支援する株式会社63Dnetを立ち上げ、地域産業の発展と農家の所得向上を目指し、地域資源に新たな価値をつくり出す挑戦を続けている。

文・写真撮影 / 村尾 悦郎

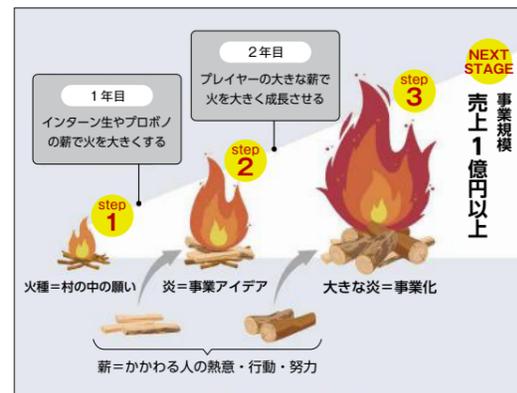


山口県初のブランド地鶏「長州黒かしわ」は、その歯ごたえと噛むほどにあふれるうま味が特長。長門名物のやきとりでいただくのが最高だ

山口県の西北部、日本海に面した長門市。沖合を流れる対馬海流の恩恵を受けて古くから漁業で栄え、蒲鉾などの水産加工業も盛んだ。また農業では、適度な寒暖差でさまざまな作物が育つほか、水産加工の過程で出る魚のアラを鶏の餌に使用することで、農家の副業として養鶏業も発展してきた。地元新鮮な鶏肉を使った焼鳥店は、休漁時の漁師たちの行きつけとしてにぎわい、長門市は今日では「やきとりのまち」としても知られている。こうして、海・山の豊かさが巡り、産業や文化が形づくられているのが長門というまちだ。

### 海と山の恵みの循環と養鶏文化

図4 TAKIBIプログラムのステップ



株式会社エーゼログループ提供の画像を一部加工



TAKIBIプログラムでは、地域のニーズに基づいた事業テーマをあらかじめ用意し、その専門家やインターンの人々とビジネスアイデアを磨き上げてプランニングしてから、実行するプレイヤーとして地域おこし協力隊を配置してスタートする  
写真提供 / 株式会社エーゼログループ

からの新規ビジネスを支援してきたが、村内のローカルベンチャーが多数育ってきたこともあり、村内で一定規模以上のビジネス創出をサポートしていく方向へと舵を切った。TAKIBIプログラムでは、村の中からニーズを掘り起こしてビジネステーマを設定し、村外のプロデューサーの知見なども活用しながら、売上規模1億円ほどのビジネス創出を目指している。

### 介護事業の立て直しに成功 最期まで安心して暮らせる村に

さらに、近年力を入れているのが福祉分野だ。数千万円の赤字を出していたという村内の介護事業を、エーゼロの100%子会社である株式会社ネで引き受けた。2022(令和4)年より、小規模多機能型居宅介護事業所を運営している。



6 小規模多機能ホームひだまりでは、一般社団法人Nest/Pocketとの連携により学童の子どもたちと利用者たちの交流を図る

7 株式会社エーゼログループで販売する「森のジビエ」の鹿肉。獣害対策でやむなく駆除された鹿を新鮮なうちに解体・加工しているため、臭みがなく、うま味強い

8 株式会社エーゼログループ代表取締役CEOの牧大介さん  
写真提供 / 6 一般社団法人Nest/Pocket  
7 株式会社エーゼログループ

直しとサービスの一元化だ。もともと小規模多機能ホームとデイサービスの二つの施設があったが、小規模多機能に一元化することで無駄をなくし、限られた人数でも充実したサービスを提供できるようにしたという。

「もう一つ挙げるとすれば、利用者さんたちが持っている力を引き出し、施設利用の増加につなげたことです。認知症が進んでも作業記憶は残っている方が多い。洗濯物をたたむとか、ご飯を作るとか、できることはやっていたり、配慮は必要ですが、結果として職員の手間が減り、利用者さんも元気になる。一般的に、介護認定されていても介護施設を嫌がる高齢者は少なくありません。でも、自分のできることで増えて楽しく過ごせるとなれば、利用は増えていきます。本来あるべき介護の形を整えていったというだけなのですが、好循環が生まれました」



株式会社エーゼログループ  
岡山県英田郡西栗倉村  
大字長尾461-1  
https://a-zero.group/



西栗倉村役場  
岡山県英田郡西栗倉村  
大字影石33-1  
https://www.vill.nishiawakura.okayama.jp/hyakumori2/



5 「ながとラボ」では、商品の企画設計から試作・製造、包装・食品表示と、商品化までをワンストップでサポート  
6 地域食材を使ったフリーズドライ製品の販売も行う



道の駅センザキッチンにある海辺のパン屋「ララベーカーリー」。地元由来の「海の天然酵母」をベースに、小麦や塩、黒糖など地元食材をふんだんに使ったパンを提供している  
写真提供／7 有限会社長門アグリスト



有限会社長門アグリストと株式会社63Dnetの代表取締役を務める末永裕治さん

有限会社長門アグリスト  
山口県長門市西深川12608-2  
☎0837-22-4671  
https://www.nagato-agrist.com/

株式会社63Dnet  
https://63dnet.com/

さらに、市内の6次産業化を目指す市内生産者や事業者で設立した「長門産ネットワーク協同組合」を経て、地域産品を生かした商品開発や野菜

### 6次産業化を推進する63Dnet

地ならではのミネラル豊富な堆肥は、「野菜の甘みが増して日持ちが良くなる」と地元農家を中心に口コミで評判が広まった。加えて、長州の恵で育てた作物を加工して販売する「長門恵工房」ブランドも設立するなど、豊かな自然環境はもちろん、土地の恵みを残さず使って、生産から加工・商品化までを地域内で完結させる動きで、長門アグリストは長門における6次産業と循環型農業の象徴的な存在となった。

の卸売りを実践的に行う組織として2015（平成27）年に63Dnetを設立した。63Dnetは、2017（平成29）年に長門市が開設した6次産業化支援施設「ながとラボ」を、2019（令和元）年から受託運営している。この施設は惣菜加工、菓子製造など複数の食品製造許可を受けており、食肉処理もでき、フリーズドライやレトルト製品の商品開発から製造、販売までを一貫して行えるという全国でも珍しい施設だ。同社も積極的にこの施設を利用して商品開発を行っており、中でも地域の食材を使ったフリーズドライ製品のラインナップは豊富だ。また、JANコードの取得や食品表示法に基づいたラベルの作成、包装資材やデザインに至る

まで、専門家による支援を提供するなど、地元事業者の食品製造に係るさまざまな相談と小ロット製造などの細かいニーズに対応しており、各種助成金・補助金の情報提供や申請のアドバイスも行う。近年では市外や県外からも利用の問い合わせが増えているという。また63Dnetは、長門の観光拠点の一つである道の駅センザキッチン内での海辺のパン屋「ララベーカーリー」も運営している。地元仙崎湾の海藻から採取した「海の天然酵母」で発酵させ焼き上げたパンは評判が良く、リピーターも多い。生産から加工、販売、さらに観光までもつなぐ存在として、長門を中心とした地域の6次産業化を多面的に支えるのが63Dnetの役割である。

「自分たちだけが儲かっても意味がない。地域全体で事業が回る仕組みをつくらないと続きません」と末永さん。このまちの未来を見据え、地域産業の発展と地元農家の所得向上を目指した取り組みは今後も続く。

### 地域全体で事業が回る仕組みを目指して

こうした取り組みの一方で、末永さんが課題として挙げるのは人材不足だ。養鶏、堆肥、耕種、加工、流通と事業が多岐にわたるほど現場を担う人材が重要となる。また、行政と連携しながら事業を進めるにあたっては、複雑な調整に時間を要する場面も少なくない。末永さんは次の世代へその役割を引き継ぐのも使命と考えている。



とりわけ養鶏業においては、長門市に本部を置く全国的にも珍しい養鶏専門の農協組織「深川養鶏農業協同組合（以下、深川養鶏）」が1948（昭和23）年に設立されて以降、生産と品質の安定に長く取り組み、今日では銘柄鶏の「長州どり」をはじめとしたブランド鶏を生産、新鮮な卵や鶏肉を使った菓子などの加工商品と共に全国に供

### 養鶏を核とした長門アグリリスト

給し、その存在感を示している。この地域産業をリードする存在として知られるのが、有限会社長門アグリストと株式会社63Dnetだ。この二社の代表を務めるのは末永裕治さんである。長門アグリリストは、末永さんの父が1966（昭和41）年に創業した有限会社末永養鶏場を前身とする。広大な農場でブロイラー<sup>※1</sup>鶏を年間100万羽以上生産し、一時は県内の鶏肉生産量の12%のシェアを誇った。1998（平成10）年に末永さんが代表に就任してから農場の規模を拡大してきたが、2010（平成22）年に現在の社名とした頃から、ブロイラー事業を半分に縮小してブランド地鶏の生産にも取り組み始めた。また、自社の堆肥を活用した県内初のサトウキビ栽培をきっかけに加工製造も開始し、6次産業化を取り入れた複合経営にシフトしていく。

### こだわりの飼育法が新たな価値を生む

「ブロイラーの売り上げは、飼料用の穀物相場や食肉相場、市場価格に左右されます。一企業の努力ではどうにもならず、利益を上げるためには農場を広げるしかない。私自身そこにあまり魅力を感じていませんでした。売り上げが一时的に下がっても生産方針を量から質に切り替え、自分たちで付加価値を生み出して、外的要因に左右されずに価格を保てる経営体制を考えたかったんです」と末永さんは語る。そうしてつくり出した「新たな価値」の一つが、現在、末永さんの農場「扇舎（ファンシェム）」で専門に飼育する山口県初のブランド地鶏「長州黒かしわ」だ。長州黒かしわは、天然記念物に指定される黒柏鶏<sup>※2</sup>を基に山口県が約15年かけて開発した肉用地鶏で、深川養鶏が2009（平成21）年に販売を開始した。適度な歯ごたえと臭みがなくジューシーで上品な味は高く評価され、長州黒かしわは2024（令和6）年に国税庁の地域ブランド保護制度「GI（Geographical Indication）」地理的表示」の指定を受け、ますますこの地域の産業を勢いづけている。

「力を引き出せるのか」という極めて根源的な問いだった。試行錯誤の末、生産効率を重視するブロイラーとは異なり、自然に近い飼育環境づくりを目指した。鶏舎内を自由に歩き回れる平飼いとし、床にはあえて好気性発酵させた鶏糞を利用した。大腸菌以外の微生物が循環する自然の営みを再現した環境を維持することで、病気を抑え込むのではなく、鶏自身の免疫力を高めるためだ。さらに、米・麦・大豆を中心とした地元農家の規格外農作物を利用した長州黒かしわ専用の飼料を、何度も配合を見直しながらつくり上げた。現在、飼料の約6割が地元で収穫された穀類だ。原料まで細かく指定された飼料にこだわり、統一した飼料で育成された地鶏は全国的にも珍しく、その徹底した管理こそが長州黒かしわの品質を支えている。品種だけでなく育て方にこだわって価値を見いだした点に長州黒かしわの本質があり、ブランド確立の土台となった。

※1 ブロイラー…少ない飼料で短期間で成長するよう品種改良された、食肉専用の商業用雑種鶏の総称  
※2 黒柏鶏…おいしい鶏肉の総称である「かしわ(柏)」の祖鶏ともいわれる在来種



1 遊休農地だった時のブドウ園  
2 年々生産量が増えている現在のブドウ園  
3 農福コンソーシアムひろしまのノウフクJAS認証の第一弾商品「果実なきモチ シャインマスカット」  
4 2023年に発売した「果実なくりーむパン」。農福連携に取り組む事業者の生産した果実が使用されている  
写真提供/株式会社八天堂ファーム

# 農業×福祉×商工で 自立持続型ビジネスモデルを構築

株式会社八天堂ファーム 《広島県三原市》

「くりーむパン」で知られる株式会社八天堂(三原市)のグループ会社である株式会社八天堂ファームは、「農福連携」で生産した果実を商品化して販売する先進的な取り組みで、2024(令和6)年にノウフク・アワード(農福連携等応援コンソーシアム主催)の準グランプリを受賞。さらに、「農福コンソーシアムひろしま」を共同設立し、2次・3次産業を掛け合わせた「商工農福連携」事業を拡大させている。

## 商工農福連携で 付加価値を生み出す

八天堂ファームは、障がい者らが農業分野で活躍することを通じて社会参画する「農福連携」を応援する地域商社として2022(令和4)年に設立された。2024年には、社会福祉法人(社)越後福祉会(竹原市)などと共に農福連携を支援する官民組織「農福コンソーシアムひろしま」を発足。農福連携に加工・商品化の2次産業、流通・販売の3次産業を掛け合わせた「商工農福連携」を目的としたプラットフォームで、栽培した農作物に付加価値を生み出すことで、公的資金に頼ら

ない自立した持続性の高いビジネスモデルの構築を目指している。

農福コンソーシアムひろしまには現在、約30の個人や法人などが正会員として加入。「1次産業から3次産業に至るバリューチェーンをつくるパートナー」としての連携を呼びかけている。八天堂ファームの林義之社長が話す通り、民間だけでなく自治体との連携も進めており、広島県および竹原、三原、東広島の3市と「農福連携による地域共生社会実現に関する協定」を締結した。特別支援学校や少年院・女子少年院で育てた苗を、コンソーシアムに参画する事業者が購入して栽培する仕組みや、収穫体験などを通して農業

## 農福連携による産品を 商品化し、販路を広げる

この農福連携事業は、八天堂ファームと宗越福祉会が遊休農地のブドウ園(約8000㎡)を2021(令和3)年に引き継いだことから始まった。イノシシの被害などを経験しながらも栽培技術を向上させ、5期目の2025(令和7)年は生活困窮者3人が携わってピオーネやシャインマスカットなど6種を栽培し、過去最高の約1万6600房を収穫した。活動を通じて働く人たちが積極的になり、責



農福連携で栽培されたシャインマスカット  
写真提供/株式会社八天堂ファーム

## 企業と担い手のニーズを つなぎ合わせる

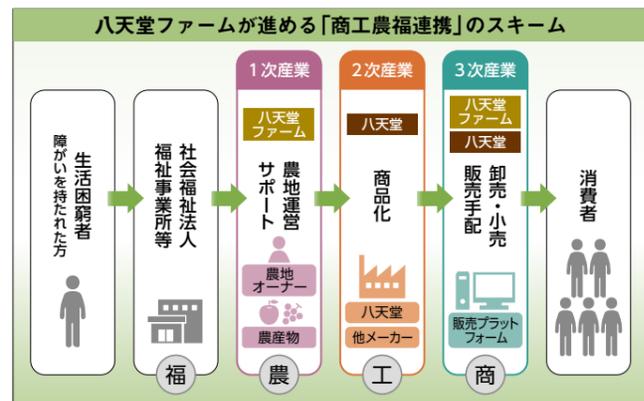
農業従事者の減少は加速しており、農林水産省が2025年11月に発表した農林業センサスによると、中国5県の基幹的農業従事者数は約7万人となり、2020(令和2)年の前回調査に比べて3割以上減り、初めて10万人を割り込んだ。65歳以上の割合を示す高齢化率は約82%と担い手の高齢化も際立つ。この現状に林社長は危機感を強め、「コンソーシアムという社会的システムを構築することで、同じような課題を抱える全国の自治体に広げ、イノベーションにつなげたい」と意気込む。

コンソーシアムのネットワークを生かした動きも生まれ始めた。ふりかけ製造の三島食品株式会社(広島市)で

は、人気商品「ひろし®」の原料となる広島菜の生産量減少による原料確保が課題となっていたが、コンソーシアムに加盟する事業者の空き農地を使って、農福連携で広島菜を栽培し、収穫全量を同社へと出荷する取り組みが実現した。

林社長は「販売先という出口が決まった農産品を中心に、農福連携を広げるようにしている」と話し、企業と担い手のニーズをつなぎ合わせている。「さまざまな事業者を巻き込みながら事業を展開し、農福連携を持続可能なビジネスに成長させることがわれわれの使命。遊休農地の活用や担い手不足の解消、食糧自給率の向上にも貢献していきたい」と林社長。

農業従事者の高齢化・減少が深刻化する中国地域で、商工農福連携からのイノベーションが始まっている。



株式会社八天堂ファームの資料を基に作成



山陽自動車道下り線の小谷サービスエリアのコンセプトショップ「minoruru」  
株式会社八天堂ファームの林義之社長

※1 ノウフクJAS認証…障がい者が生産行程に携わった食品および観賞用の植物の日本農林規格  
※2 令和7年2月1日時点の概数値  
※3 基幹的農業従事者数…15歳以上の世帯員のうち、ふだん仕事として主に営農に従事している者



時代の変化を見据えて  
技術力で地方から都市の事業を支え  
「なくてはならない」  
会社を目指す

株式会社イpsilonソフトウェア 代表取締役  
**渡部 晋司**

(島根県松江市)

遊びの中で見つけた  
将来の夢

現代社会において、電子ゲームは誰もが手軽に楽しめる娯楽の一つである。国内のゲーム人口は約5500万人に上るとされ、子どもから大人まで幅広い世代が日常的にゲームを楽しんでいる。島根県松江市を拠点に、ゲームの開発やソフトウェアの受託開発を行う株式会社イpsilonソフトウェアの渡部晋司社長も、ゲーム文化と共に育った一人だ。物心がついた頃からゲームに親し

み、多くの子どもたちと同じように夢中になって遊んでいたという。小学1年生の時、ゲームをクリアした後に表示される制作者名のクレジットを目にし、その意味を親に尋ねた。そこで初めて、ゲームの世界には「制作」という裏側があること、ゲームがコンピュータによってつくられていることを知ったという。「将来ゲームの仕事をするれば、一生ゲームで遊んで暮らせるはず。だったらコンピュータの勉強をしよう!」と思ったんです」と笑う渡部社長。しかし、その

頃はまだパソコンが高価な時代。子どもが簡単に手に入れられるものではなく、もどかしい思いを抱えていた。

**インターネット黎明期に抱いた  
起業への憧れ**

本格的にコンピュータに触れたのは高校時代。インターネットが急速に普及し始めた時期で、ようやく自身のパソコンを手に入れた。ゲーム制作を目的に始めたものの、実際に触れてみると、その面白さはゲームだけにとどまらなかった。仕組みや可能性そのものに惹か

と成長した。

その後、ライフステージの変化をきっかけに、自身の将来や暮らし方を見つめ直すようになった。これまでに培ってきた技術や経験を、今度は生まれ育った地元のために生かしたい――妻からの「やりたい夢があるなら、やればい」という言葉にも背中を押され、故郷・松江市での起業を決意。2016(平成28)年に株式会社イpsilonソフトウェアを設立した。

れ、大学ではコンピューター分野を専攻した。

当時は、学生起業家が立ち上げたITベンチャーなどが脚光を浴びていた時代背景もあり、渡部社長自身も起業への憧れを抱いていたという。ゲーム制作に打ち込み、ミニゲームをいくつも完成させた経験から、「自分にもできるのではないか」と手応えを感じていた時期もあった。

しかし、アマチュアとして開発していたゲームは、規模が大きくなるにつれ個

人の技術や発想だけでは超えられない課題が次々と立ちはだかった。個人の力では太刀打ちできない。このまま勢いだけで会社をつくっても、きつと行き詰まる。そう冷静に判断し、渡部社長はいったん就職の道を選ぶことに。入社したのは、国内最大手のゲーム会社である任天堂株式会社だった。

スマートフォンの登場を機に  
次なるゲームの舞台へ

任天堂に在籍した約4年半の間には、



1 現在同社に在籍するエンジニアは15人。半数以上がリモートワークで業務にあたっている  
2 グリーでメインプログラマーとして開発に関わったスマートフォン用ゲームアプリ「消滅都市」のリリース日。左下が渡部社長  
3 開発に携わり続けている渡部社長。経営者として総務や経理、人事などさまざまな業務に関わるため、「会社員時代の忙しさとは比べられない」と話す  
写真提供/2 株式会社イpsilonソフトウェア

誰もが知るようなヒット作にも多数携わった。幼い頃からの夢を叶えた喜びの一方で、開発現場の厳しさも身をもって知った。新しい製品が次々と生み出されるに高い集中力と持続力が求められる。「登山に似ているかもしれない。登っている最中はきついけれど、頂上にたどり着いたときの達成感は格別。ゲームの開発もそれに近いものがあります」完成の瞬間、チーム全体で喜びを分かち合えること、そしてプレイヤーから「面白かった」という声が届くことが、何よりのやりがいだったという。

2007(平成19)年になると、スマートフォンが登場した。当初は一部の愛好家に支持されるとどまっていたが、渡部社長は早くから「次はスマートフォンの時代が来る」と見据えていた。その読みは的中し、情報収集や娯楽の中心は「家の中」から「手のひら」へと移っていく。ゲームを取り巻く環境が大きく変化するに促し、スマートフォンゲームの可能性に強く惹かれた渡部社長は、2012(平成24)年、SNSと連動するモバイルソーシャルゲームに注力していたグリー株式会社(当時)へ転職する。舞台をソーシャルゲーム開発へと移し、リードエンジニアとして技術面の中核を担った。中でもメインプログラムを担当した『消滅都市』は、10年以上にわたり多くのユーザーに親しまれる長寿タイトルへ

時代の変化を読み、次の一手へ  
AI活用と柔軟な働き方

イpsilonソフトウェアは、設立当初から、都市部の企業からの依頼を中心に、ゲーム関連の制作に携わってきた。コロナ禍が明けた今、単ごもり需要が落ち着いたことで、人々がゲームに割く時間はやや減少傾向にある。スマートフォンゲーム市場の成熟も相まって、ゲーム業界は大きな転換期を迎えつつある。次の潮流をどう読むかが経営のカギとなる中、同社ではIT系ソフトウェアの受託開発やECサイトのシステム開発にも力を入れ、事業の幅を広げている。例えば、食品のD2Cサービスを行う企業に創業期から携わり、サブスクリプション型の受注や課金、発注管理など、サービスを支える基幹システム全体を構築。都市部の事業を、地方から技術面で支え

※1 D2C…企業が仲介業者を介さず、自社製品を消費者に直接販売するビジネスモデルのこと。「Direct to Consumer」の略



株式会社メモワールイナバの圓井貴志社長

# 葬儀に関する業務を一貫体制で行い ひと手間をかけサービスを深化

## 株式会社メモワールイナバ 〈鳥取市〉

文／倉恒弘美 写真撮影／山田真美

### 業務を内製化して一貫体制へ

鳥取県東部で葬祭関連事業や飲食事業を展開する株式会社メモワールイナバは、1972（昭和47）年に鳥取市で創業した。業界では後発企

業に位置付けられるが50年以上の歴史を持ち、地元で長く愛されている。同社では創業以来、「社会のニーズに応え、癒しの空間を創造し、選ばれる企業となる。因って互いに幸福になることができる」という理念を掲げている。この理念の下、生活困窮者の葬儀も積極的に引き受け、葬儀の規模を問わず故人や遺族の想いに誠実に寄り添ってきた。

特長は、霊柩車の運転から祭壇の生花アレンジメント、葬儀保険、香典返しギフト、仕出し料理など葬儀に関する業務だけでなく、仏壇や墓石の設置、終活支援やさらには遺品整理まで、葬儀の前後も含めた業務を自社で一貫して手掛けている点だ。同業他社では、これらの業務は外部の専門業者に委託することが一

般的で、同社でも以前は外部委託していた。それをあえて自社で担うようになったのは、遺族や参列者が思い残すことなく故人を送り出せるよう対応するためだ。

「業務の内製化は、先代社長の時代に始まりました。ご葬儀は、その方の人生の最期を締めくくるセレモニーです。ご依頼いただいたお客さまだけでなく、ご参列いただいた皆さまにも『良いお葬式だった』と言っていただけるように、全てに責任を持って執り行いたいと考えています」と代表取締役の圓井貴志社長は語る。

**短い準備期間でも想いを汲んで対応**

同様の理由から、葬儀の際は担当者として一人の社員が窓口となり、



鳥取市服部にある本社ホールは、日常と非日常の橋渡しとなり三界六道を照らす「灯笼流し」に見立て、建物全体で「送りなす心」を表現している  
写真提供／株式会社メモワールイナバ

遺体の搬送、遺族との打ち合わせ、納棺、式場設営、司会進行、霊柩車運行など、関係部署と連携しながら全般を取り仕切る。

ほとんどの遺族とは初対面で、これまでの準備期間は最短の場合2日しかない。担当者は、深い悲しみにある遺族に寄り添いながら希望を聞き取り、言葉にならない気持ちにも配慮して準備を行う。遺族が後悔や思い残すことがないように、プロならではの提案力も試される瞬間だ。

過去には、ゴルフが趣味だった故

るとい関わり方も、同社の特徴の一つだ。

そして近年注目しているのがAIだ。同社では、AIを活用したコード生成支援ツールを導入し、開発業務の効率化を図っている。最近では、会社に大量に届くメールをAIによって自動整理するシステムの開発にも着手した。メールの内容をAIに学習させ、重要度や内容ごとに分類し、関連付けて整理することで、業務負担の軽減を目指す試みだ。

「これまでもVRや仮想通貨など、話題になる技術は次々と出てきました。AIもその延長線上にあるものだと思います。当初はそれほど注目していなかったのですが、試しにメールシステムに組み込んでみたところ、想像以上に使い道がある



4 地元の生徒・学生に向けた講演を積極的に引き受け、ゲームづくりの楽しさを伝えている  
5 毎年京都で開催される日本最大級のインディーズゲームイベント「BitSummit」で自社開発アプリ第1弾の「Pizzaverse」を出展

### イブシロンソフトウェアの自社開発アプリ



Pizzaverse  
2016年12月に配信を開始した、宇宙を舞台にした2Dアクションゲーム。半年も経たずに全世界累計ダウンロード数が15万件を突破（現在は配信終了）



脱出ゲーム 京都温泉宿の謎解き  
2024年5月に配信を開始。秘密に満ちた京都の温泉宿で謎を解き明かし脱出を目指す

写真・画像提供／株式会社イブシロンソフトウェア



株式会社イブシロンソフトウェア  
鳥取県松江市白湯本町13-4  
大樹生命松江ビル2階  
☎0852-21-0503  
https://www.epsilon-software.co.jp/

ことを実感しました」と渡部社長は話し、新たな事業の可能性を感じている。

また、コロナ禍を契機にVPN<sup>※2</sup>をはじめとする通信インフラの整備が進み、働き方も大きく変化した。同社では現在15人のエンジニアのうち半数以上がリモートワークで業務にあたっているという。

「居住地は鳥根にこだわらず、県外からもリモートワークができるエンジニアを採用しています」と語り、今後も柔軟な働き方を生かした人材採用を進めていく構えだ。

**人がつなぐ鳥根のIT産業  
原点の思いを胸に、新たな挑戦へ**

鳥根県は、IT産業を地域経済の重

要な柱の一つと位置付け、企業誘致や人材育成を続けてきた。県内には、ウェブサービスやシステム開発などを手掛けるIT企業が数多く存在している。特徴的なのは、同業他社同士が競争一辺倒に陥ることなく、横のつながりを大切にしている点だ。勉強会や交流会が活発に行われ、最新の情報や知見が共有されているという。

「顔の見える関係性があり、困ったことがあれば相談もできる。他の業界にはなかなかみられない環境かもしれません。穏やかな関係性で互いに高め合う、開かれたネットワークが、この地のIT産業を支えている。

同社ではさまざまな事業を展開しているが、渡部社長の原点は「ゲームが好き」

という思いにある。ITやソフトウェア開発の面白さに触れながらも、最終的に目指す場所は変わらない。

「引退までまだ30年くらいはあると思うので、その間に、一つと言わず、いくつかヒット作を出したいですね」

微量を表す記号として用いられるギリシャ文字「イブシロン(ε)」を冠した社名には、「小さい企業だけれども、なくてはならない会社でありたい」という思いが込められている。その志を胸に、挑戦はこれからも続いていく。

writer  
木次 亜紀子（つぎあきこ）  
鳥根県出身。観光プロモーション業務、広告会社勤務を経てフリーライターに。各種出版物・情報誌・ウェブサイトなど幅広い媒体で取材・執筆・編集を手掛けている。

※2 VPN…通信を暗号化して、インターネットを安全に使用するための仕組み



生花部による祭壇の花の準備



メモワールイナバでは葬儀に関わる全ての業務を社員らが心を込めて行っている



業務部による思い出ビデオの制作やライブ配信  
写真提供/株式会社メモワールイナバ



2025年9月の「開館25周年感謝フェア」では、映画上映や寄席、近隣校のダンスパフォーマンスのほか、入棺体験や遺影用写真の撮影会、宮型霊柩車の試乗展示など葬儀社ならではのイベントが行われた  
写真提供/株式会社メモワールイナバ

人のために本物のゴルフカートを式場内に展示したり、バイクのハーレーダビッドソンの愛好家の葬儀では愛車をディスプレイし友人たちのハ

シユ休暇や、希望日に休暇を取得しやすいシフト制を導入している。この他、2泊3日の社員旅行や夏と冬の親睦会も社員から好評だ。

生前の写真やスライドショーにした「思い出ビデオ」もその一つだ。葬儀当日、式場内のプロジェクターで大型スクリーンに投影し、故人との思い出や人柄をじっくり振り返ることでより深く偲び、遺族や参列者は想いを共有することができる。

また、合同会社ライフケアーズと月1回共催しているグリーンフサポート「暖環の会」は、大切な人を亡くした遺族の喪失感や悲嘆を癒やす会だ。生花部の社員が「花に触れることで少しでも心を癒やせたら」と自らの希望で講師を務め、フラワーアレンジメント教室を開くなどしている。

時代とともに葬儀のスタイルは変化し、ニーズも多様化している。同社では、鳥取市内に四つの葬儀会館

重ねるとともに、資格の取得に励む社員も多い。葬祭ディレクターや遺品整理士、終活カウンセラーなど、各種資格の受験費用は、交通費・宿泊費まで全額を会社が負担する。

「学び直しや新しい知識の習得、また社員同士で切磋琢磨することで、モチベーションも上がります」と圓井社長。資格手当や特別手当、技能手当など、個々の努力も評価して葬儀のプロを育てている。

また、合同会社ライフケアーズと月1回共催しているグリーンフサポート「暖環の会」は、大切な人を亡くした遺族の喪失感や悲嘆を癒やす会だ。生花部の社員が「花に触れることで少しでも心を癒やせたら」と自らの希望で講師を務め、フラワーアレンジメント教室を開くなどしている。

葬儀での誠実な対応や、地域貢献活動の積み重ねにより、同社は鳥取県東部エリアでの葬儀執行件数でトップシェアに成長した。

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

同社では、地域に根差した企業として地域貢献活動も熱心に行う。先代社長が設立したNPO法人ウエルネススクールは30年以上活動を続けており、毎年、プロアスリートや著名な指導者を招いてスポーツ教室や講演会を開催することで、地域のスポーツ振興に貢献している。

また、合同会社ライフケアーズと月1回共催しているグリーンフサポート「暖環の会」は、大切な人を亡くした遺族の喪失感や悲嘆を癒やす会だ。生花部の社員が「花に触れることで少しでも心を癒やせたら」と自らの希望で講師を務め、フラワーアレンジメント教室を開くなどしている。

「エリア拡大については、鳥取県内でも地域で風習は大きく異なりますし、また、理念の浸透不足も懸念されるので予定していません。今後も鳥取県東部を中心に、『メモワールイナバを選んで良かった』と皆さまに言っていただけのように、ひと手間のサービスを充実させていきます」と圓井社長は力強く語る。サービスを深化させ、より地域に選ばれる企業となることを目指している。

「学び直しや新しい知識の習得、また社員同士で切磋琢磨することで、モチベーションも上がります」と圓井社長。資格手当や特別手当、技能手当など、個々の努力も評価して葬儀のプロを育てている。

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、合同会社ライフケアーズと月1回共催しているグリーンフサポート「暖環の会」は、大切な人を亡くした遺族の喪失感や悲嘆を癒やす会だ。生花部の社員が「花に触れることで少しでも心を癒やせたら」と自らの希望で講師を務め、フラワーアレンジメント教室を開くなどしている。

また、合同会社ライフケアーズと月1回共催しているグリーンフサポート「暖環の会」は、大切な人を亡くした遺族の喪失感や悲嘆を癒やす会だ。生花部の社員が「花に触れることで少しでも心を癒やせたら」と自らの希望で講師を務め、フラワーアレンジメント教室を開くなどしている。

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ

また、葬儀の現場は、遺族の深い悲しみに寄り添いながら、冷静に式を執り行う必要がある。このため、社員の精神的な負担に配慮し、働く環境を整えて社員の心身の健康保持に努めている。定期的なストレスチェックを行い、高ストレス者の対応にあたるのは、社員と保険会社で構成する衛生保険委員会だ。また、リフレッ



1 終活セミナーは自社ホールだけでなく、依頼があれば地域の公民館やお寺などでも行う  
2 フラワーアレンジメント等で遺族の心を癒やす「暖環の会」は、月1回開催している  
3 「メモワールイナバ杯」として特別協賛を行う、「春の全国小学生ドッジボール選手権鳥取県予選 兼 春の鳥取県小学生ドッジボール選手権大会」

写真提供/株式会社メモワールイナバ

葬儀の仕事は「人の死に関わる業務」というマイナスイメージを伴うだけに、地域と積極的に関わることによって「自社のリアルな姿を知ってほしい」という想いもある。このため、情報発信にも力を入れ、テレビCMのほかSNSや動画投稿サイトを活用し、葬儀のマナーや仕事の舞台裏、地域での活動の様子を社員自身の声で届けている。

倉恒 弘美（くらつねひろみ）  
鳥取県倉吉市出身。東京の出版社勤務を経てフリーライターに。Uターン後、鳥取県を中心に山陰の情報誌やPR誌で活動する。

株式会社メモワールイナバ  
鳥取市服部15-3  
☎0857-38-4400  
https://www.m-inaba.co.jp/

# 大好きな祭りを ひとつでも多く 地域の未来へ残したい

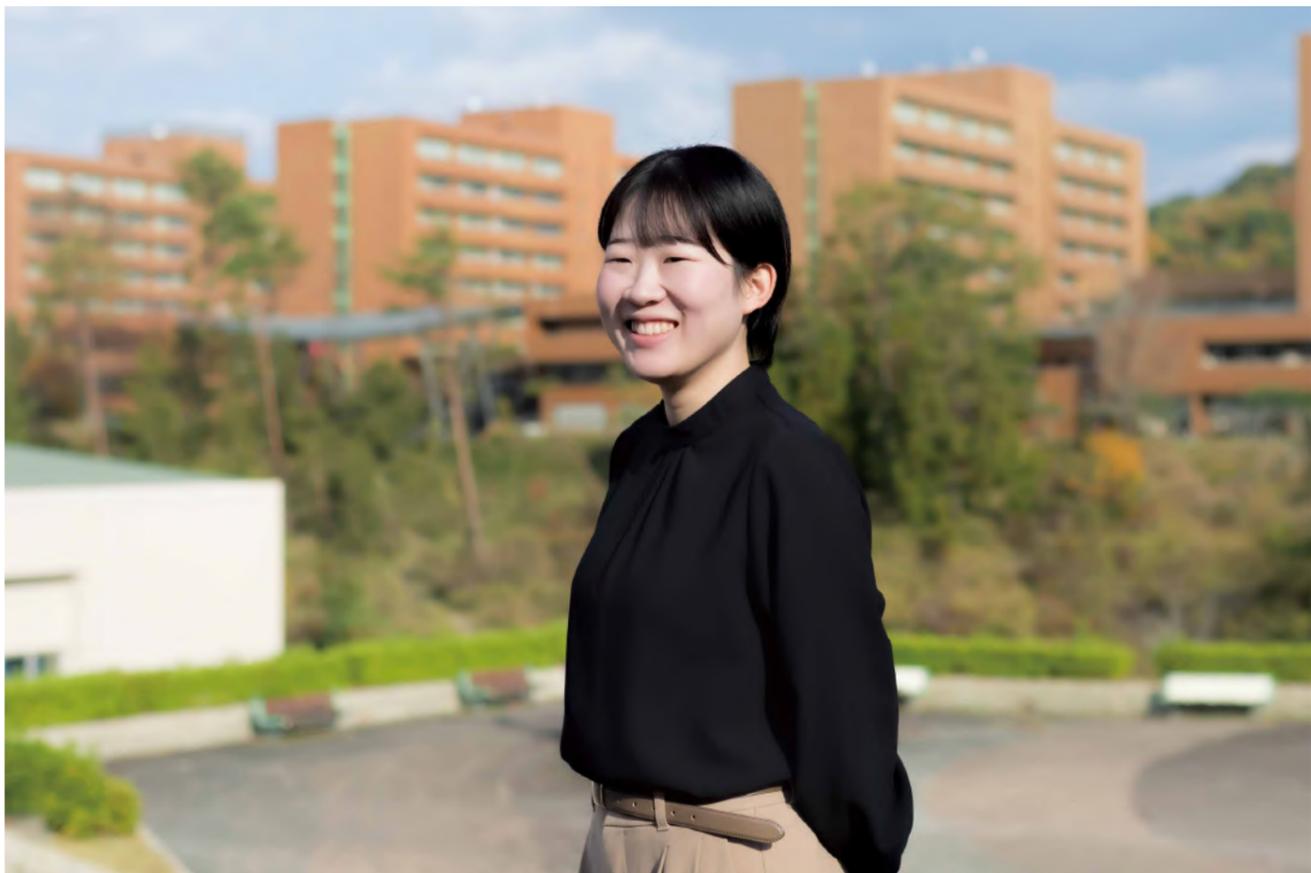
とらでいっしゅ株式会社 代表取締役  
片桐 萌絵 《広島県東広島市》

近年、日本の祭りは急速にその数を減らしている。祭りを愛する広島大学学生の片桐萌絵さんはその現状に危機感を覚え、祭りや民俗芸能の支援に特化した会社を立ち上げて持続可能な形で地域の未来へと継承するサポートを行っている。

文／川西 由香理  
写真撮影／中野 章子

profile  
片桐 萌絵  
〈かたぎり・もえ〉

愛知県出身。奥三河地方の「花祭」舞手の家に生まれ、3歳から舞台に立つ。コロナ禍をきっかけに民俗芸能に関心をもち、伝統を守る祭りと現代化する祭りを比較研究。広島大学総合科学部に在学中の2023年10月に祭りを支援する団体「とらでいっしゅ」を設立、2025年4月に法人化。2024年度「キャンパスベンチャーグランプリ全国大会」最優秀の経済産業大臣賞（ビジネス大賞）など、受賞多数。



## コロナ禍で気づいた 祭りの大切さ

全国各地の祭りに足を運び、存続のための支援を行う民俗芸能コンサルティング会社「とらでいっしゅ株式会社」代表取締役の片桐萌絵さんは、広島大学の学生だ。その活動の原点は、生まれ故郷である愛知県の奥三河地方で700年続く「花祭」にある。毎年11月から1月にかけて北設楽郡一帯の各地区で開催され、国の重要無形民俗文化財に指定されている祭りである。

「花祭の舞手を代々受け継ぐ家に生まれ、3歳から舞を披露してきました。祭りが近づく和家人には親戚や地域の人たちが集い、笛や太鼓の音が響く中でひたすら練習する日々が続きました」

それが当然の環境で育ったが、毎年厳しい稽古で怒られるため、幼い頃は祭りがあまり好きではなかったという。その意識が変わったのは高校入学の年だ。コロナ禍に入り、花祭は神事以外の全てが中止になった。

舞台上で掛け声が飛ぶような熱気や、観客と一体になるワクワク感が丸ごとなくなつたことで、自分がいかに祭りを好きだったかを思い知らされた。何より、毎年会っていた人々とのつながりが途切れた喪失感は大きかった。

「いつも左端に座っていたおばちゃん、五平餅をくれたおじちゃん。名前も知らないけれど毎年会っていた人たちと会えない。祭りは楽しいだけではなく、地域を結ぶ場であり、いろんな側面を持つていることに気づきました」と片桐さんは振り返る。

## 祭りを研究し支援団体を設立

その後、高校の探究活動で民俗芸能の文献調査に取り組み、少子高齢化などで全国的に祭りの数が減少している事実を知った。「無形文化財の継承には最新技術によるデジタル保存が有効ではないか」と考えた片桐さんは、2023（令和5）年、祭りの歴史とデジタルアーカイブという二つの異なる研究分野をカバーする文理融合の広島大学総合科学部へと進学し、さらにその後は「継承の新たな仕組みを考えるためにもまずは外部との接点を持つべき」と、情報発信を展開させていくこととなる。

しかし入学当初は、広島で自分ができることに限界を感じて退学まで考えたという。そうした中、夏休みに参加した岡山県西粟倉村での10日間のフィールドワークが変化をもたらした。共に過ごした中国地域の他大学の学生たちの持つ積極性は、自分の環境

を理由に何かと諦めていた片桐さんにとって刺激となった。さらに、秋に西粟倉村を再訪して地域の祭りに参加したことで花祭の記憶がよみがえり、祭りに対する情熱が再燃した。

この一連の出来事で「どこにいても自分が動けば世界は変わる」と片桐さんは考えられるようになり、同年10月、祭りや民俗芸能の支援団体「とらでいっしゅ」を立ち上げるに至った。

## 支援活動で確信した 祭りの本質と力

最初に取り組んだのは、慣れ親しんだ花祭のPRだった。花祭は閉鎖性が高く、観光客を積極的に受け入れない雰囲気ではあるものの、住民と対話を重ねると「地域外の人にも見てもらいたい」と考える人たちもいた。その声に背中を押され、パンフレットを制作し、分かりやすく祭りの見どころを発信すると、変化が生まれた。

「住民が花祭への誇りを再認識し、情報発信を肯定する方向に意識が変わりました。それまで否定的だった高齢の方も私のSNSを見てくれるようになり、誰かが動けば、それが起爆剤となり地域全体の意識が変わると実感しました」

この成功を経て、2024（令和6）年、今度は自身が通う広島大学のある

東広島市内で、安芸津町の三津祇園祭の運営に参加することとなる。担い手不足で大名行列が存続の危機だと知り、片桐さんが協力を申し出たのだ。資金難を考慮して参加料を徴収する形としたが、SNSで参加を呼びかけると、全国から学生、子育てが一段落した母親、旅好きの男性など多様な世代の32人が集まった。

募集から移動手配、練習会の運営や調整などを行いながら片桐さんが重視



花祭の舞手を代々継ぐ家に生まれた片桐さんは、幼少期から花祭で舞を披露してきた  
写真提供／とらでいっしゅ株式会社



片桐さんが作成した花祭のスケジュールや見どころを紹介するパンフレット。英語版や、誰でも参加できるように歌詞を紹介したバージョンもある

〈山口県周南市〉

# 原田 特別純米酒西都の雫

海の幸と山の幸の前菜 四種盛り



株式会社はつもみぢ  
山口県周南市飯島町1-40  
☎0834-21-0075  
https://hatsumomidi.co.jp/  
料理協力：津々浦々 別館夜叉  
山口県周南市飯島町1-40 はつもみぢビル1F



酒蔵に併設する角打ち「原田酒場」

全国有数のコンビニートを擁する山口県周南市。その中心地、徳山の繁華街に、1819（文政2）年創業の酒蔵「はつもみぢ」はある。現社名はかつての代表銘柄で、酒を飲んで頬が赤らむ様子を紅葉に例えて詠んだ和歌に由来する。「日本酒の需要が1973（昭和48）年ごろから減少する中、飲み屋街にある当社は業務用酒販の売り上げを伸ばして、1985（昭和60）年には酒造を休止し酒販に専念しました。バブル期当時、東京から戻った父（現社長の原田康宏さん）もビール配達に明け暮れました」と広報担当の渡邊智代さんは話す。

地元愛が強く「現状維持は衰退」を信条とする康宏さんは、12代目就任の2年後、2006（平成18）年に新たな地酒を造るべく酒造を再開させた。酒造りの経験がなく独立行政法人酒類総合研究所で基礎から学ぶ中、頼りとなったのは自身の舌だ。康宏さんは、利き酒競技会で優勝を重ねるほど正確に味の判断ができる能力を備えていた。「日本酒は搾りたてが一番うまい」との信念から、四季醸造を決意して蔵に空調設備を完備した。また、原料を山口県産に特化し、酒米はそのうち6割が周南産だ。市内山間部の鹿野で汲み上

げた中国山地の伏流水を選び、手間のかかる瓶燻火入れで低温発酵させる。そうして小ロットで仕上げ、一年中、常にフレッシュな味を届けるのが、家名を銘柄とした酒、「原田」だ。

今回紹介する「原田 特別純米酒西都の雫」は、県のオリジナル酒米「西都の雫」のスッキリした持ち味を軸に、山田錦を麴米に使うことでふくよかなうま味をプラスさせた。食中酒に最適なやや辛口で、冷でも燻でも楽しめる。海の幸、山の幸の前菜と共にいただく。「お料理の食材も、お酒と同じテロワール。相性は最高ですよ」と渡邊さん。特に、周南で水揚げされたなまこを茶ぶりにしたものや光市産姫貝の醤油煮は、適度な歯ごたえから素材の良さが際立つ素朴な味わいが広がり、確かな飲みごたえを秘めたこの酒に合う。

日本酒は「國酒でありコミュニケーションツール」と説く社長が原点回帰を託した酒は、敷地内に2023（令和5）年にオープンした角打ち「原田酒場」でも味わうことができ、他にも日本酒を使ったカフェメニューが楽しめる。はつもみぢは観光客も地元の人にも気軽に集える酒蔵として、今後も周南のまちを盛り上げていく。

※1 瓶燻火入れ…瓶に詰めてから湯煎でゆっくり加熱（約60～65℃）し、その後急冷する殺菌方法

※2 テロワール(Terroir)…農産物が育つ土地の自然環境と、そこに住む生産者の技術や哲学を含めた「風土」や「産地特性」

したのは、参加者に「祭りの本質」を体感してもらうことだった。「準備過程や練習、本番後の慰労会なども含め、地域の日常の中にある交流にこそ祭りの本質と醍醐味がある」と片桐さんが話す通り、参加者らは「やっこ」の練習や準備をしながら地元の人たちと心を通わせ、祭り当日は地域の一員として共に盛り上がった。「広島弁が新鮮」「地域のひとの会話が楽しかった」などの声が多く、祭りの後も参加した留学生と地域の間で交流が続くなど、祭りを起点に新たな関係性が生まれた。こうした経験を通して片桐さんは祭りの本質とともに、祭りの持つ力の大きさも実感したという。

「かつて祭りは、神様に祈りを捧げて必死に毎日を生きる時代に必要不可欠なものでした。科学が発展した現代ではだんだんそういった意識は失われ、象徴的な存在になってきていますが、祭りの場は、人間が喜怒哀楽をありのままに表現できる空間です。年に一度、人の奥底にある人間らしい感情を呼び覚ます力があるとあります」と話し、片桐さんはこうした力を持つ祭りを未来に残したいという思いを強くしていった。

人手と資金の不足を補うために考えたのは、祭りを持続可能なビジネスモデルとして構築する方法だ。「中国



1 片桐さんの呼びかけで集まった、三津祇園祭（東広島市安芸津津町）大行列への参加者たち  
2 参加者募集のチラシ  
3 やっこの練習や祭りの準備などにより地域の人々との交流が生まれる  
4 2024年「第8回中国地域女性ビジネスプランコンテスト(SOERU)」で大賞を受賞、取り組みについて説明する片桐さん  
5 写真提供/とらでいっしゅ株式会社

writer  
川西 由香理（かわにし ゆかり）  
広島県生まれ。ライター。現在はよつば編集広告事務所を拠点に、観光、地域振興、人物などの分野で中国地域を中心に取材・執筆している。

とらでいっしゅ株式会社  
広島県東広島市鏡山2丁目313  
https://www.tradish.info/

地域女性ビジネスプランコンテスト(SOERU)の大賞をはじめ数々の賞を受賞したことで受けた評価や支援も後押しとなり、大学3年の2025（令和7）年4月、とらでいっしゅを民俗芸能専門のコンサルティング会社として法人化した。

**地域に寄り添う伴走型の支援**

片桐さんが目指すのは、何百年も続く祭りの価値が正當に評価され、持続可能な形で継承できる仕組みづくりだ。経済面や運営面も含めて実現可能な選択肢を考え提示する前に、まずは主催者である地元住民の本音を引き出すことから始まる。続ける道も終える道も、住民自身が納得して答えを出した

上で進むためだ。時には6時間半かけて現地に通り、地域の人の家に泊まりながら対話を重ねる。こうした積み重ねが信頼を生み、住民に寄り添う支援活動の軸となる。

同社では3年計画で主催者への支援を進めている。1年目は全面的に伴走、2年目は一部の役割を段階的に任せ、3年目は自走できる体制を整える。

支援は、MAJURIブランドینگと担い手育成の「お祭り魂育成塾」を柱に、多様な面でフォローを行う。「広島江戸祭り」（広島市）ではSNS運用を担当、「乙九日炎の祭典」（広島県北広島町）では、たいまつ行列に参加するバスツアーを企画し、祭りの認知拡大と盛り上げに一役買った。また、広

島市安佐南区の神楽団によるZ世代向けの体験会や、大崎上島町で中高生が祭りに屋台を出す出店プログラムの支援など、次世代の参加機会をつくる取り組みも進めている。

今では片桐さんの志に賛同し協力してくれるスタッフは学生を含め9人に増えた。自治体からの紹介や人脈により、仕事も増えつつある。卒業後は、大好きになった広島を拠点に、故郷の愛知にも支社を設け、全国規模で民俗芸能の支援を展開する計画だ。「本来はのんびりしたいタイプ。周りの人が幸せであればいい」と笑う一方で、祭りになると熱くならずにはいけない。この情熱で祭りを継承し、地域の未来を切り拓いていく。

※ やっこ…大行列で2人1組で長い槍を持ち、互いに投げ渡す花形の役割

# 唐子踊

瀬戸内の港町に古くから伝わる稚児舞。その華やかな異国風の衣装や「コンネン ハジメテ ニホンヘワタリ……」で始まる口上は、この地域にかつてあった朝鮮との交流を感じさせる。

(岡山県瀬戸内市)



1 疫神社の境内で奉納される唐子踊  
2 神が宿る神聖な踊り子は、不浄な土に触れないよう肩車もしくは山車に乗って移動する  
3 紺浦地区の船形の山車「飛龍丸」  
4 交替の年、紋付袴の前任者2人が後継者2人の踊り子の前に立って踊ることを「先踊り」という  
5 約2カ月前から週2回の稽古を行う

## 港町に伝わる 異国情緒ある踊り

瀬戸内市の港町・牛窓町には、湾を囲んで五つもの前方後円墳が点在し、古くから瀬戸内の海運拠点として栄えたことがうかがえる。江戸時代に12回にわたり来日した外交使節団「朝鮮通信使」も江戸への往復の道中で寄港しており宿泊地の史跡も残る。紺浦地区に伝わる「唐子踊」もまた、李朝時代の朝鮮の影響とみられる特徴が多く、朝鮮通信使の来航時に彼らに教わった、あるいは彼らを真似て創作したなど、その由来は諸説ある。

江戸時代の記録「南園神書」には、「唐人の服装で踊る唐人踊があり、いつからか途絶えてしまったが江戸時代の文政年間（1818～1831年）頃に唱歌等を覚えていた古老により再興された」と紹介されており、少なくとも200年以上前から伝承されていることになる。

総勢9～12人の構成だ。疫神社の社殿脇で2回踊った後は、天神社、薬師堂、神功皇后腰掛岩を順に回り、1回ずつ踊る。なお、最後の神功皇后腰掛岩は、神功皇后が三韓出兵の帰路に紺浦に立ち寄り、異国の舞を座つて鑑賞したという伝説が残る岩だ。

代々、踊り子は地区内で6～7歳の男子の子が選ばれ、11～12歳になると代替わりを迎える。交替の年には、前任者2人が後継者2人の踊り子の前に立って踊る「先踊り」が行われる。後継者の鮮やかな衣装とは対照的に、前任者の衣装は黒の紋付羽織袴と地味なものだ。

## 守るべきものと 変えていくものを選択

唐子踊は1960（昭和35）年に岡山県指定重要無形民俗文化財に指定され、保存会は1973（昭和48）年に結成された。

コロナ禍で中止を余儀なくされた際には継承が危ぶまれたが、「この地域の文化と伝統を途絶えることなく未来につなげたい」という地域住民の思いに応え、2022（令和4）年には奉納場所を疫神社のみとするなどの対策を取りながら再開させ、今に続けることができた。

「唐子踊は、この地域の財産です。今後もし引き継いでいくためには、根幹となるしきたりは守りながら、関係者の負担を減らす工夫も必要」と保存会の柴田洋秀会長は考

## 神事として 秋の祭礼で奉納

唐子踊は異国風の鮮やかな色彩の衣装を着た二人の男子が踊る稚児舞だ。地元の氏神である牛窓神社で毎年10月第4日曜に行われる秋の祭礼時に、紺浦地区内の疫神社ほか3カ所で奉納される。

祭礼当日の朝、踊り子は入浴して身を清め、念入りに化粧をして身支度をする。神が宿る神聖な踊り子は、外に出ると世話人の肩車あるいは山車「飛龍丸」に乗って移動し、足を地に着けることはない。不浄な土に触れないためだ。

冒頭、踊り子の「コンネン ハジメテ ニホンヘワタリ ニホンノミカドハトオリ マセン（中略）オンレイモウス」という口上の後、太鼓役の「ヒューホイ」の掛け声とともに笛と太鼓、唄に合わせた踊りが始まる。踊り子2人のほかには小太鼓1人、横笛3～4人、残りは囃子方で、

える。自身も5年間踊り子を務めたという。「男の子2人という条件は変えませんが、踊り子を地に着けることはできないため、肩車での移動は必須であり、女の子では難しいと考えています」と話す。一方、踊り子の衣装の保管は本来その家の役目だったが、現在は保存会で担当し、約2

カ月前にわたる週2回の稽古は練習時間を短縮するなど、家庭に負担をかけない努力を行っている。また、若い会員が遠慮なく活動しやすいように保存会会長は60歳前後で退き、若手に役目を譲っているという。ただ、役職を退いても人手が足りなければいつでもサポートはする。

「地元の高久高等学校から提案いただき、東北大学の協力でモーションキャプチャのデータをアーカイブ化しようという話もあります。新しいものも取り入れつつ、全国でも珍しい、この唐子踊という伝統を大切に後世に残したいと思っています」と柴田会長は話す。

守るべきものと変えるものを時代に合わせ柔軟に考え、次の世代へと継いでいく。



30～50代が中心の唐子踊保存会は、踊り子経験者4人に現在の踊り子とその家族が加わった構成だ。後列中央が会長の柴田洋秀さん

唐子踊保存会  
[連絡先]  
一般社団法人瀬戸内市観光協会  
☎0869-34-9500



李朝時代の武官の正装に似た雰囲気の上着に、裾を絞ったズボンをはき、ピンクの帯を巻いている。足元は白足袋で、麻糸の房が付いた帽子を被る



# 雲月山

うんげつさん

《広島県》



尾根筋から見た雲月山山頂。山肌には、鉄穴流しの水路跡が見える



- 1 尾根筋から見た雲月山山頂。山肌には、鉄穴流しの水路跡が見える
- 2 山焼きの火入れ前に防火帯づくりを手伝う地元の小中学生。後ろにはヒノキを植えてつくられた旧芸北町の町章が見える
- 3 地域住民や消防団、一般参加のボランティアが協働で山焼きを行う
- 4 初夏に咲く北広島町の町花、ササユリ
- 5 秋はススキが一面に広がる

写真提供 / 一般社団法人北広島町観光協会

広島県北広島町にある標高911.2mの雲月山は、雄大な草原が広がるなかなかの山だ。野生生物保護区に指定されており、景観と生態の保全のため、毎年4月に山焼きを行う。その後、新緑の草地在が一面に広がって夏には多彩な花々、秋にはススキと、どの季節も美しい姿を見せてくれる。

県道沿いの展望台下駐車場を起点に、雲月山・高山・岩倉山を通る周回コースを時計回りに進み、まずは目的地である雲月山の山頂を目指す。急な下りが続き、鞍部の仲ノ谷からは急登が変わる。林を抜けて尾根まで上がると視界が開け、目指す山々が一望できる。景色を楽しんでいるとそのまま山頂に到達する。県境を挟んで島根県側がマツ林、広島県側が草原のため東の展望が開けている。斜面に

見える筋は、かつて行われた鉄穴流し<sup>かん</sup>で使う水を集めた水路の跡だ。  
笹に覆われた稜線を進みそのまま高山山頂を通過、岩倉山の手前から日本海が見える。岩倉山を越えると、正面にヒノキでかたどった大きな旧芸北町の町章が現れた。峠の登山口まで下り、県道を少し歩けば出発地の展望台下駐車場だ。



地図製作：磯部 祥行

※ 鉄穴流し…山を切り崩して土砂を水で流し、たたら製鉄の原料となる砂鉄を採取する方法

一日も。百年も。



中国電力



中国電力ネットワーク



若い風ホームページ

©「若い風」VOL.115 2026年3月1日発行

発行人：笠見 茂男 編集人：城市 奈那

●企 画：中国電力株式会社 地域共創本部  
中国電力ネットワーク株式会社 総務部

●発 行：中国電力株式会社 地域共創本部  
〒730-8701 広島市中区小町4-33 ☎082(544)2759

●編集・制作：株式会社ジェイクリエイト  
〒101-0052 千代田区神田小川町3-7-13 ヴァンサンクビル6F ☎03(6273)7135